

針山健史委員の質疑及び答弁

永森委員長 針山委員。あなたの持ち時間は60分であります。

針山委員 おはようございます。自由民主党、針山健史でございます。

4月に2回目の当選をさせていただいて、初めての予算特別委員会での質問の機会をいただきました。関係者の皆さんに感謝しつつ、初心を忘れず、また一生懸命、県政に取り組んでいきたいと思えます。よろしく願いいたします。

J R氷見線・城端線の検討のスピードが大変速まってきていると感じております。ただ、これまでの議論の中で、氷見線・城端線が何かお荷物のような扱いを受けていることに何ともやるせない思いをしているのも事実でございます。

私自身、今でもできるだけ氷見線を利用しておりますし、前職の金融機関では砺波、南砺での勤務が長かったので何かと城端線もよく利用をしておりました。朝夕の通勤通学では本当に多くの皆さんが利用しておられますし、日中も頼っておられる方が多いわけでございます。私にとっても、県民の多くの皆様にとっても、なくてはならない移動手段だと思っております。

そもそもという話になりますけれども、J R氷見線・城端線が少しずつ利用者が減ってきて低迷している、そういった原因をどのように捉えているのか。

一般的に人口減少、また少子高齢化、自動車社会の到来、そういったことが要因だとも言われておりますし、時々課題の解決に向けた、ちょっとJ Rの消極的なスタンスも原因じゃないかという声もありますけれども、一方で、行政として、これまで鉄道の利便性

向上や、駅周辺、沿線のまちづくりを積極的に進めてこなかったのではないかと、進めてこれなかったことも要因なのではないかと思うわけでございます。新田知事にお伺いいたします。

新田知事 城端線・氷見線——この順序はそう気にしないでいただきたいと思いますが、城端線・氷見線については、これまでも県と沿線市が連携して、城端線における1日4往復の増便の試み、あるいはアニメキャラクターを活用したラッピング車両の運行、観光列車べるもんたの魅力向上への支援など、利用者の増加に向けた取組を進めてまいりました。

また、駅周辺のまちづくりですが、地元市では駅周辺の再開発事業や駅スペースの有効活用、駅を中心としたエリアの一体的な整備などに取り組まれているところであり、こうした取組によって近年、全国のローカル鉄道の利用が押しなべて減少する中で、城端線・氷見線は大変健闘しておられるのではないかと理解しています。

ローカル鉄道を取り巻く環境は、今、委員がまさにおっしゃったように、人口減少、マイカーの普及、さらにコロナ禍での働き方の変化もあるかと思いますが、これらの要因によりまして依然として厳しい状況にあるわけですけれども、利便性を高める、そして利用を増やす好循環を目指していく必要があると考えます。

また、鉄道の必要性和重要性を住民の皆さんが改めて認識をし、自ら地域の鉄道を守り育てていく意識を醸成していくことも重要であると考えております。

現在、議論を進めております地域交通戦略会議では、企業単独の経営努力のみではウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域公共サービスの実現は困難といった議論が行われています。

県としては、こういった議論を踏まえて、地域公共サービスはその地域の活力、魅力に直結する公共サービスであり、行政の役割もこれまでの事業者への側面支援から自らの地域に対する投資へとかじを切る、これまで以上に積極的に利便性向上に取り組む必要があると考えております。

針山委員 増便であったり、べるもんた車両の導入、また駅スペースの有効活用と、いろいろ取り組んでこられた。それでもまあローカル路線は仕方ないという話かもしれませんが、やっぱり先ほども言いましたけれども、なくてはならない移動手段だと思っておりますし、残していこうということではなくて、しっかりと活性化していこうという議論にしてほしい。そして地域には、町には必要な存在なんだということで、またいろいろと計画も進めていただきたいと思いますと思っております。

先ほどJRのスタンスについても少し触れさせていただきましたが、8月に委員長を務めております地方創生産業委員会の県外視察で、JR西日本金沢支社福井支店に立ち寄りしました。立ち寄った目的は、JR福井駅を起点とした、恐竜博物館など県内の主要観光地を結ぶ観光周遊型XRバスの導入についての調査研究でありました。

そこで大変印象に残っていることは、この事業ではJR西日本が初めての試みとして、福井銀行や福井県内の有力企業へ共同出資を呼びかけるなど、地域活性化のために主導的な役割を担っておられたということでございます。また、福井県との連携協定を締結し、県から補助金とかお金の支援ということではなくて、サポートしてほしいということで提携を結んでいると聞いております。このXRバスの事業で収支を上げるんだと、大変強気な計画、と言ったら失

礼ですけれども、大変積極的な計画を進めておられます。

そして、この挑戦に目を輝かせて説明をしていただいたJRの方、実は高岡の方でございまして、その情熱をどうしてもうちょっと高岡に向けてもらえないのかなと思っていただけでございます。

JR西日本グループは今、様々な事業を行っています。上場企業でございますので、ホームページでいろいろと情報が出ております。直近の2023年3月期全体の営業収益、売上げは1兆3,955億円。そのうち運輸業は幾らぐらいあるかと思われませんか。営業収益は7,503億円。私たちがこのJR西日本の本業と捉えている運輸業は、売上げの約53%にすぎないということでございます。ほかに物販、飲食、百貨店など流通部門で1,694億円、不動産業で1,700億円、ホテル・旅行などで3,056億円。

私たちは、とにかく鉄道事業の運営であるとか、路線の利便性だとか、そういったところに協力や理解を求めてきましたけれども、JRに対して、この鉄道運営以外の面で地域の活性化に向けたノウハウの提供や協力を求める、まちづくりに積極的に携わってもらうよう働きかけてはどうかと思いますが、田中交通政策局長にお伺いいたします。

田中交通政策局長 今ほど委員から御紹介がありましたけれども、JR西日本は鉄道事業以外にも、ホテル事業、物販事業、百貨店、様々な事業に取り組んでおられます。また、公共交通の活性化という点での御質問でしたので、鉄道事業とまちづくり、こういうものを絡めまして活性化を図っていくためには、市町村やJR西日本との連携も非常に重要であると考えております。

県外行政視察の話が出ましたが、私も委員長と共に福井に行って

まいりました。お話を実際に聞かせていただきまして、北陸新幹線の福井・敦賀開業を機に導入される、福井県の観光周遊型XRバスの御紹介がありました。これはJR西日本さんの御説明によりますと、今回、福井・敦賀開業ということで、かなり力を入れて取り組まれていると、このようなお話でした。

本県にも、御存じのとおり新幹線駅は3つございまして、県都の玄関口であります富山駅、また黒部宇奈月温泉駅は黒部宇奈月キャニオンルートの玄関口、さらに新高岡駅は2つの国宝、瑞龍寺、勝興寺の玄関口でもあります。

来年の秋には北陸ディステーションキャンペーンもありますことから、県としましてはJRに対しまして、そういうまちづくり、地域の魅力向上も含めた富山の魅力のアピールと誘客の働きかけを行っております。

今後も積極的に関わっていただき、さらなる観光交通の活性化に取り組んでまいります。

針山委員 今、常任委員会の視察の話も出ましたけれども、田中局長には2泊3日、全行程お付き合いをいただきまして、本当にありがとうございました。

全行程どころか、最後、南紀白浜で視察は終わったわけですがけれども、私たちを見送ってまだ南紀白浜に——仕事だと思っただけでも——残られたという、本当に熱心にお付き合いいただきましたことを本当に感謝申し上げます。

JR西日本のホームページには、新幹線をはじめとした運輸業をさらにブラッシュアップしていくとともに、運輸業以外にもより一層力を入れていくことが重要であると考えているといった文言もあ

るわけでございまして、しっかりとJRのノウハウというものを活用していくべきではないかと思っております。

氷見線・城端線の議論はどんどん進んでいくわけですが、議論すればするほど、何か後退していくものもあるわけでございます。

高岡テクノドーム別館の話でございます。

一般質問のときに武田県議から、前知事による選挙目当ての施設ではないか、議論は無駄な時間ではなかったのかといった趣旨の質問もあったと思っております。同じ会派として話もしてきたと思いますし、自民党県西部議員団としても一緒に議論を尽くしてきたと思っております、何でそんな質問になるのかなということで不思議に思っております。

先日の予算特別委員会でも菅沢先輩から、ゼロベースに近いような形での見直しという話だったのかなと思っておりますけれども、これまで議会でもいろいろ議論をして入札までかかった、そんな案件だと思っております。

ただ、そういった質問に呼応するように、議論が尽くされていなかったと応じる知事の姿勢も、私は今、大変残念に思っているわけでございます。

高岡テクノドーム別館は、これまで県と関係市、経済界が協議して、3回の機能の拡充等に関する検討会を経て、北陸新幹線の敦賀延伸に向け、県全体及び県西部地域のにぎわい拠点として整備に向けて取り組んできたものと認識しております。氷見線・城端線の活性化の役割も担うものだと考えております。

高岡テクノドーム別館の整備について、高岡市をはじめ呉西地域

の市や経済界とは、現在どのような協議が行われているのか。立ち止まって何も協議がなされていないとっておりますが、新田知事に見解をお伺いいたします。

新田知事 高岡テクノドームについては、令和2年7月に策定した基本計画において、多様なニーズに対応するため、展示に係る施設、機能を充実し、県民や企業にこれまで以上に親しまれ、県西部地域をはじめとする県内経済の活性化に資する拠点施設となるよう、新たに高岡テクノドーム別館を整備するものとされました。

検討会には、高岡市長さん、経済団体、関係団体の関係者から成る委員が参加されておりまして、県と関係市、経済界などが協議し進められてきたと私も認識しています。

これに基づいて、北陸新幹線敦賀開業の効果を取り込むため、令和6年度中の開館を目指して準備を進めてきましたが、これまでにない資材価格、労務費の高騰が続く中、展示棟の建築工事の入札で応札者が現れず、入札中止となりました。

昨年の11月議会で、展示棟に加え集客交流棟、電気、空調、給排水衛生設備を含めて46.3億円の債務負担行為を県議会にお認めいただきました。今や、その範囲内で使いやすく、かつ多機能な施設が建設できるのかどうか不透明になっていると感じております。

現在、県庁内において、本館も含めた利活用などについて検討しております。論点を整理して、準備ができ次第、県西部6市あるいは経済界の皆さんに説明し、御意見を伺いながら方針を定めてまいりたいと考えております。

針山委員 どうしても武道館の取組状況との温度差を感じるわけでございます。資材高騰などで建設費が大幅に膨らむことが明確になっ

たことを受けて、令和5年2月の県議会への整備費予算の計上を見送った後すぐに富山県武道館整備基本計画の見直し検討委員会を設置して、4月にすぐに開催して、建設地やコンセプトの絞り込みなどの紆余曲折の末、基本計画が見直されたと思っております。

一方、高岡テクノドーム別館は、5月に建設工事の入札に応募がなく不調に終わり、すぐの6月の議会で、設計を含めて一度立ち止まって検討する必要があると知事は発言されておられます。

今ほど、部局横断で県庁で協議していると。先日は高岡市とも今度相談せにゃあかんなど、そんなような話だったと思っておりますけれども、もともと検討してきた高岡テクノドームの機能拡充に関する検討会を早期に開いて、まず置かれている現状を話し合うべきではないかと思っております。

武道館との進め方、議論の違い、どこからそういうことになって、どうしてそういうことになっているのか知事にお伺いしたいと思います。

新田知事 今、大型施設が3つありますけども、私は温度差があるとか、あるいは進め方に違いがあるという意識は全くありません。やはり場所も違う、目的も違う、規模感も違うわけですから、それぞれにおいて、ベストなように適時適切に対応していこうということでやっているわけでありませう。

高岡テクノドームに関しましては、本当に急激な時代の変化の中で、どうすることが一番ベストなのかということ、まず提案する側の事務局として、いろいろと積んだり崩したりをやっているということでもあります。

こういうことを、やみくもにいろんな方々に話を振って、あるい

は相談して意見を聞いて回るということよりも、まず、こちらのスタンスを確認してから外部の皆さんと意見交換することが私は大切だと思っています。そんな状況です。御理解いただきたいと思いません。

針山委員 武道館のときにも検討会が立ち上がって、いろんな県民の皆様の声を検討会でいろいろともんで議論して進めてきたと思っていますし、テクノドームも3回の検討会を開催して、いろいろなことが決まってきたと思っています。

県の武道館のときは、行き詰まったときに、すぐに検討会を開いて相談をしたのに、どうして高岡テクノドームのときは、検討会を開催せずに県庁の中で持ったまま、なぜ立ち止まったままになっているのかということが疑問なわけでございます。

例えば、私はこの状況というのは、高岡のテクノドームの検討会に出席された12人の方に大変失礼な状況になっているんじゃないかと思っています。やっぱり自分たちが検討してきたものを何も聞かされないまま、議会の中で議論が尽くされていない、簡単にそんな答えを出される。そうではなくて、しっかりと現状を、そのときそのときの行き詰まった現状があるのなら、議論してきた検討会にまずは説明することが大事でないか。その中で、今後どうしていいか。今の検討会ではなかなか議論が尽くされないということであれば、新しく委員を増やすとか、先ほどもちょっと言いましたけども、JRさんにも、敦賀延伸に向けてそういった取組をしているんですから、ステークホルダーみたいな形で入ってもらうとか、とにかく今の状況を打破するために、私は検討会をまずは開いていただきたいと。委員の方から今後どういう方向性で進めていけばいい

のかということも1回ヒアリングしていただきたいと思っておりますけれども、再度になります、知事にお伺いしたいと思います。

新田知事 武道館の場合は、確かに見直しの検討会を立ち上げました。それは、知事部局内で意見としてそういう必要があるということでした。委員は並べて話をされますが、大きな違いは、武道館は老朽化していて建て替えが必要ということ。そして11万人もの署名がありました。そういう状況だということ。それから、テクノドームの場合は本館というものがまだあります。32年たっているとはいえ、まだ十分に使えるものがあるという状況。

そんなことで、それも含めて、先ほど来、川島委員の御質問にお答えしましたが、本館も含めて今いろんなことを考えているということでありまして、結果、我々事務局で論点が整理できまして、やはり見直し検討会が必要だねということになったとしたら、またそれを立ち上げることはやぶさかではありません。その場合は、武道館の場合は、基本的に前回と同じメンバープラス何人か補充をして検討会をつくりました。テクノドームの場合はどのようにするか、それはまた御相談かと思っております。

それから、先ほどこれも川島委員の御質問にお答えしましたが、方向性は何ら変わっていません。マスコミさんはいろいろ書き立てておられますけれども、私は基本計画を変えるとかということは今まで一言も言ったことはない、基本的に方向性は変わっていない。

針山委員が多分あまり愉快に思っておられない発言のことだと思えますが、あれは9月21日に武田慎一議員がいろいろと御質問をされました。その中で今、針山委員が言及されたように、選挙目当て

であったとか、あるいは構想あって魂なしというような発言もありました。私はその頃議会にいませんでしたから、でもそういった受け止めをしておられる議員もおられたのかということをおのとき初めて知りました。

1期生の皆さん以外は、その場におられたと思うので、武田議員と同じ議論を聞いておられたんだと思います。ですから、もしかしたら、議員さんの中には同じような考えをお持ちの人もおられるのかなと思いつながら聞いておりました。

それで、基本的な方向性は変わっていませんが、単純に過去を振り返った感想として、ああいうことを申し上げたところでございます。

武田さんには、さらにこれは新田のことじゃない、新田が始めたことじゃないんだから、自分なりに立ち止まってよく考えてみろというアドバイスもいただきました。そういうような言葉に対応した発言であったということで御理解をいただきたいと思っております。

針山委員 武田議員の発言に関しては、別に知事が弁明される必要はないと思っておりますけれども、方向性がまず変わらないということを確認できたということ、川島委員からもありましたが、高岡は、おととい商工会議所の会頭の名前で、テクノドームを早くやってほしいんだという要望が知事のほうにも届いていると思っておりますし、高岡市民で別館が要らないんだという人は誰もいないわけでございます。機能、いろんな中身の検討は必要だということならば、ぜひ引き続き、検討会、そういったところでしっかりと議論できるような場面、機会をつくっていただきたいと思っております。

あと1点、先日の予特で安達委員から質問があったんですけど

も、知事がちょっと明確に答えられなかったところがあると思っています。私も大変聞きたかった質問であります。

敦賀延伸を控えて、この富山県として、いろいろ誘客に対する取組というのは絶対に必要だと思っています。目玉となる戦略は今のようなのを考えておられるのか、知事にお伺いします。

新田知事 まず、2015年の3月14日に富山、そして金沢までが開業しました。それに向けて本当にいろいろな施策を考えて、その開業効果を最大にするべく取り組んできて、初年度は金沢でありとあらゆるコンベンションが行われました。それをちょっと横目で見ながらですが、翌年から富山にもいろんなコンベンションが多く来るようになりましたし、その開業効果は十分に享受をしているところでございます。

それで今回、来年の3月16日に敦賀まで開業するというのも、もちろん大きなチャンスではありますが、今既に通っている富山県としましては、これまでの実績の上にさらにどう積み上げていくかということ。これは、私は必ずしも箱物に頼ることではないと思っています。経済を活性化して人の動きをどんどんつくっていく、それがやはり王道だと思っています。人が動く上では、やはり交通機関が必要なわけでありまして、新幹線というのは、とても大きな力になるということ。

例えば、企業誘致でも最近、大型の投資が続いております。富士フイルム、富山科学、KOKUSAI ELECTRIC、SCREEN社、あるいは住友電工などなど、本当に大型の半導体関連、バイオ医薬品関連などの投資が続いています。こういったことによって必ず人が動く、そして新幹線に乗ってこられる方も多いと思

ます。

それから、もちろんスタートアップ支援もそうであります。

それから、そもそも、これまでの富山県の経済を担ってこられて、これからも中心的になっていただく県内企業のDX、あるいはGX、これらを大いに支援することによって、県内企業の生産性も上げていって、どんどんもうけてもらう。そうすればまた必ず人が動きます。

今の時点で既に、2015年3月14日から北陸新幹線が開業して公益を享受している本県としては、そのような経済対策をどんどん打っていくことが、私はこの新幹線の効果をさらに享受するための王道だと考えております。

針山委員 企業誘致をいろいろ言われましたけど、別にこれは、新幹線が来る来ない別にして取り組むべきことだと思っております。

ちょっとこの話ばかりしていたらほかの質問ができませんので次に進みたいと思いますが、中谷商工労働部長、あした委員会で質問しますので、またよろしくお願いします。

氷見線・城端線の経営があいの風とやま鉄道へ引き継がれる。そういうことが望ましいんだろう、そうなっていくんだろうと何となくイメージはしてきました。

再構築検討会において、JR西日本から引き継ぐことで大筋合意しておりますけれども、その際に提示された5つの条件、この妥当性についてどのように認識しているのか、新田知事にお伺いいたします。

新田知事 先日開催されました城端線・氷見線再構築検討会の第2回の会議では、あいの風とやま鉄道の日吉社長から、あいの風とやま

鉄道の既存の路線と城端線・氷見線とは区分経理した上で、赤字補填の保証を行うことや、J R西日本からの要員の確保、移管前のレールや枕木の整備などの支援協力について、5つの条件が示されました。

この条件については、妥当性も含めて、その対応について、次の検討会を来月に予定しておりますが、ここで沿線市や鉄道事業者と共に議論することにしております。

公共交通を担う会社として、移管後の経営について熟慮された上で示されたものと日吉社長の発言を受け止めております。

城端線・氷見線が持続可能な運行を行っていくために、県や沿線市の公共サイドが鉄道という公共インフラへの投資として、一定程度の負担を行うことが必要と考えております。

一方で、J Rによる支援も必要であります。検討会では、沿線市からJ R西日本に対して、移管前の安全対策の実施や、再構築に向けて前向きな議論を進めていることを踏まえた手厚い支援を求めたらどうかという意見も出されています。

再構築実施計画の策定に当たりましては、移管後も安全な運行が確保されること、また、あいの風とやま鉄道の経営に支障がないことが大事だと思っております。同社から示された5条件の内容について、今後、沿線市、J R西日本と共に協議検討を進めてまいります。

針山委員 私とすれば、議論が進むことは大変好ましいと思っておりますけれども、あいの風とやま鉄道さんが会議に1回出て、すぐに条件提示をされた。私は、割と具体的な条件提示だったのではないかと思っています。

まだこれからいろんなことを議論していかなくてはならないのに、例えばこの条件が足かせとなって話が進まなくなったり、条件に固執して頓挫したりすることにならないかということ懸念しているわけでございます。

特に、路線の経理を分けて、さらに氷見線・城端線の赤字をしっかりと保証してほしいが一等最初の条件でございます。こういう考え方を前面に出されると、今のあいの風とやま鉄道の支線として捉えてもらっては、せっかくの合意も何となく、今までのJRと何が変わるんだということになりかねないわけでございます。

あいの風とやま鉄道にしても、今期直近の決算は1,100万円の黒字でありますけれども、営業利益段階では赤字ですし、補助金基金も投入されているわけです。

ぜひあいの風とやま鉄道さんには、路線が増えることでビジネスチャンスが来たんだというような考え方に基づいて、議論に加わってほしいと私は思っております。

JR氷見線・城端線を引き継ぐということになれば、あいの風とやま鉄道としては今後、プロパーの社員の確保や育成が必要になると考えております。そうでなくても、鉄軌道王国と言われる富山県には鉄道に関わる人材が今後も必要であるということを考えれば、人材の確保育成にどのように取り組んでいこうとしておられるのか、田中交通政策局長にお伺いたします。

田中交通政策局長 御存じのとおり、鉄道事業は安全で快適な輸送サービスを提供するため、運転士や車掌、保線や車両整備、駅業務など、様々な業務に従事する社員によって運営されております。

あいの風とやま鉄道が将来的に城端線・氷見線の経営を引き継ぐ

ことになれば、路線延長が延び、管理する駅や車両の数も増えることから、新たに社員が必要となります。このため、第2回の城端線・氷見線再構築検討会では、あいの風とやま鉄道の日吉社長から、運転士や施設、電気、車両などの技術系の要員の確保について条件の一つとして示されたところであります。

将来にわたり持続可能な運行を行うためには、人材の確保育成は大切であると考えております。あいの風とやま鉄道、JR西日本、沿線4市と共に協議検討を進めてまいります。

針山委員 ちょうど1年前の予算特別委員会の場で、そういった鉄道関係の人材の確保に向けて、県立高校で鉄道学科をつくったらどうだということも提案をさせていただきました。荻布教育長、覚えておられますでしょうか。大変愛想のない回答だったと記憶をしておりますけれども、そういった若いうちから囲い込むこともやっぱり大事だと思っております。

続きまして、今回の補正予算案では、伏木富山港利用促進事業、トライアル補助金が拡充されて、新たに内航フィーダー航路の利用が支援対象となりました。

阪神港と結び、国際フィーダー航路に新しく加わった伏木富山港における貨物輸送に関して、今後、氷見線・城端線との連携は考えられないか。

フィーダー航路は、物流業界の2024年問題への備えとして期待もされております。今後モーダルシフトの加速が予想される中で、鉄道と港湾の連携も大きな魅力になると思いますが、中谷商工労働部長にお尋ねいたします。

中谷商工労働部長 鉄道、船舶による輸送は、一度に大量の荷物を運

べることから、本年6月に国の関係閣僚会議で取りまとめられました物流革新に向けた政策パッケージにおいて、トラック長距離輸送から鉄道、船舶へのモーダルシフトを強力に促進していくこととされております。

今回の9月補正予算案については、今委員から御説明があった予算を提案しているというところでございます。

伏木富山港は鉄道貨物駅と比較的近いという特性を有することから、本県では、高岡市の吉久にあるJR高岡貨物駅までの鉄道輸送と、それから伏木富山港からの海上輸送を組み合わせた複合一貫輸送について、平成21年度から28年度まで実証実験が行われております。

しかし、鉄道の発駅、着駅、要は、鉄道を間に入れるということになりますと、それぞれでトラックへの積替えのためのリードタイムがどうしても必要になるということから、JR高岡貨物駅の利用増には結びついていない現状がございます。

また、その先にある今のJR高岡貨物駅のもう少し海側のほうに旧国鉄の新湊線の線路があるのですが、今は使われていないということで、それを再整備して万葉線に接続する構想というものもあったと聞いておりますが、レールの新設、貨物輸送対応のための線路補強等に要する事業費がかなり大きいということや、採算性の面で大きな課題があるとされております。

現在、県では、サンドボックス予算を活用いたしまして、伏木富山港を活用した輸送の現況等に関する実態調査を実施し、県内企業等の貨物流動の実態ニーズを把握することとしております。この結果を踏まえて、伏木富山港の利用やモーダルシフトが促進されます

よう取り組んでまいります。

針山委員 ハード整備はなかなか時間とお金がかかるということだと思いますが、いろいろな実証実験の中で、いろいろな可能性を探っていただきたいと思います。またよろしく願いいたします。

教育の振興についてお尋ねをいたします。

うちの次男が県立高校で野球をしております。今年の夏の全国高等学校野球選手権富山大会2回戦でありますけども、夫婦で応援観戦に行ってきました。砺波市野球場チューリップスタジアムでございます。

当日の第1試合が県立富山中部高校対県立富山工業、第2試合が県立富山いずみ対県立富山北部高校。よくよく見ますと、砺波の球場ではあるんですけども、この砺波学区の生徒が受検もできない、入学もできない学校、そして試合に出向いてきた学校も砺波の生徒を受け入れない、そういったところが砺波学区でありまして、試合中にそんな学区のことを考えているのは私だけだろうと思っておりましたけども、入学選抜に関し、ようやくこの全県一区が実現したわけでございます。ただ、学区の考え方は残していくということでございます。

3月の予算特別委員会で県立高校の入学者選抜について質問がありました。永森委員長だったと記憶しております。知事の答弁でも検討の必要性があるんだという答弁だったと思っております。

ただ、検討されているという話をあまり聞かないですし、教育委員会のほうからも、大変デリケートでナイーブな案件で、なかなか大胆なことができないというような話もお聞きをしております。

県立高校教育振興検討会議において、学科やコースの見直しなど

に関する検討が進められておりますけれども、各高校の特色化、魅力化を踏まえて、入学者選抜についても併せて検討が進められるべきではないかと思っております。

「検討せい」だけでは、私たちもやっぱり説得力はないだろうと思ひまして、私、具体的に5つの提案をさせていただきたいと思ひます。

知事もおっしゃっておられましたけれども、入試時に複数の学校を選択して受検ができないか。あとは推薦入試の見直し。今、全国募集の話も出ておりますけれども、いずれは全世界から募集をしてもらえないか。あと、富山北部高校と呉羽高校だけだと思ひんですけども、試験時の評価の傾斜配点、それをもう少しいろんな学科、コースに合わせた傾斜配点の採用としてもらえないか。

もう一つは、首都圏を中心に大都市で試験を開催できないか。今、じいちゃん、ばあちゃんを富山に残したまま、若い夫婦が都会に出ることも多いわけでございます。

ただ、子供たちが、富山はいいところだから、じいちゃん、ばあちゃんの元で高校生活を送ってみようかなと、そんな思ひの方を少しでも拾ってあげたいと思ひているわけでございます。

提案も含めまして、選抜制度についての検討を荻布教育長にお伺ひいたします。

荻布教育長 教育委員会では、今年5月に取りまとめられた令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会の報告書を踏まえて、6月に設置した県立高校教育振興検討会議におきまして、学科やコースの見直しに関する基本的な方針などについて検討を進めております。特色と魅力ある高校づくりを進めることで、多様な生徒さんの

主体的な進路選択の実現を図っていきたいと思っています。

委員から御指摘がありましたとおり、高校の特色化、魅力化ということと入学者選抜制度というのは関連したものと考えておりました、これまでも各高校が学科やコースの特色に応じて、例えば推薦選抜では、芸術文化、体育のいずれかの分野において優れた能力または実績があることですか、生徒会活動、社会奉仕活動など、学校内外における自発的な活動に継続して積極的に取り組んだ実績があるといったことのいずれかに該当して、入学後のいろんな活動に成果が期待されるといったような志願資格を示して行っているということのほか、御紹介のあったように、一般選抜でも調査書の評価の配点の比重を変えるといった方法の工夫も行ってきております。

入学者選抜制度についてですけれども、やはり高い公平性というものが求められるということ、また変更を行う場合は、中学校教育にも大きな影響を与えるということがありますことから、高校と中学校の関係者による連絡協議会を毎年開催して、協議をしながら進めてきております。

近年では、追検査の導入や新型コロナウイルス感染症罹患者への対応など、志願者の受検機会の保障に関して制度の整備改善などを行ってきているところであります。

今後も引き続き、県立高校教育振興検討会議の議論と併せまして、国の動向や社会情勢の変化なども踏まえて、客観性や公平性を確保しつつ検討を行いまして、生徒の多様な資質、能力を評価できる高校入学者選抜制度となるよう努めてまいりたいと思います。

委員からもたくさん御提案をいただきましたので、この協議会のほうでも、そういったことも御紹介しながら議論していければと思

っております。

針山委員 全部とは言いません、2つ3つ採用してください。お願いします。

高岡市の雨晴海岸の一部がキャンプ場として活用されています。たまに朝早く散歩に行くと、1人でキャンプしておられる方が海に向かってコーヒーを飲んでいるがですね。いい時間やなと思っております。

サンドボックス枠で、この雨晴キャンプ場の活性化に向けた民間ノウハウの活用による可能性基礎調査を実施するという事をお聞きしました。このキャンプ場だけではなくて、マリンスポーツ、マリレジャーも併せて、海岸の魅力を最大限に生かした取組となるよう幅広い観点から調査できないか、広島生活環境文化部長にお尋ねします。

広島生活環境文化部長 雨晴キャンプ場は、県が昭和46年から順次施設整備を行ってきております。昨年度は約21万人に利用していただいております。現状、キャンプ場は公衆トイレや休憩所、手洗い場といった基本的な施設設備にとどまっております。

一方、近年のアウトドア志向の高まりなどを踏まえますと、このエリアに係る今後の活性化に向けた新たな取組の検討も有効なものではないかと考えたところでございます。

このため、今後どのような施設の整備が求められるか把握するとともに、その求められる施設と民間ノウハウを活用して導入する可能性も検討する基礎調査を今回実施するとしたところでございます。

具体的には、キャンプ場周辺の施設の立地などの土地利用、また雨晴地区における様々な法律の規制、交通アクセスなどの状況につ

いて調査分析すること、また県政モニターやウェブマーケットにより利用者ニーズ調査を行うこと、その結果を踏まえ、新たに導入可能な施設につきまして民間ノウハウの活用も含めて整理すること、こうしたことを行いまして、今後の方向性を検討していきたいというものであります。

雨晴地区は、キャンプ利用のほかにマリンスポーツも盛んなエリアでございます。利用者のニーズ調査におきましては、マリンスポーツ、マリンレジャーも含めまして、どのようなアクティビティー活動ができることが期待されているかについても調査いたします。

今後、雨晴キャンプ場が雨晴海岸の自然や環境を生かしまして、魅力にあふれ、地域の活性化にも寄与するものとなれるよう、高岡市とも連携し幅広く検討してまいります。

針山委員 ありがとうございます。

幅広く調査いただけるということでございます。知事もこの間、雨晴海岸のほうでマリンレジャーを楽しまれたという情報も入っております。いいところですよ。テクノドーム別館と合わせたらもっと魅力が増しますので、その辺もまたよろしく願います。

地元にある伏木高校は、来年度の募集から定員が削減されることになりました。国際交流科としてロシア語、韓国語、中国語が学べる特色に加えて、40人から35人と少人数で語学教育が受けられる特色が新しくできたわけございまして、教育長の温かい御配慮だと思っております。

海に近い県立高校はまだいろいろあるわけでございますけれども、その特色化、魅力化として、先ほどの雨晴海岸など、そういった海岸を利用したマリンスポーツに関する部活動であったり、授業で取

り入れてみてはどうかと思うわけでございます。

トライアスロン、サーフィンはオリンピック種目としても採用されておりますし、何といたっても本県の魅力は、美しい富山湾であると思っております。荻布教育長にお尋ねします。

荻布教育長 特色あるスポーツ活動、部活動などは、学校の魅力の一つとして発信できるものだと考えます。

現在、県内では、マリンスポーツを行っている高校としては、唯一新湊高校のヨット部があるわけですが、こちらでは近くの新湊マリーナを拠点として、県教育委員会が派遣するテクニカルエキスパートからの技術的指導を受けて活動をしています。

また、県のスポーツ協会や県セーリング連盟などの支援をいただいて、遠征や強化合宿、備品の整備などを行って競技力向上に努めているところです。

ただ、新たにマリンスポーツに関する部活動を設けるといった場合には課題もあると考えています。具体的には、恒常的な活動場所の確保や競技に必要な用具、施設が必要となること、また、例えばサーフィンのように県内に競技団体がない場合、安全な活動のために必要な専門的な指導者の確保が難しいということ、また、高体連が実施するマリンスポーツはヨット競技だけとなっているため、その他の競技では大会の参加が難しいことなどといった課題があるところでもあります。

また、何より部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものでありまして、部活動の新設や継続的な活動は、まず生徒の希望や熱意があるということが前提と考えます。

県教育委員会としては、こうした特色ある部活動などが実施され

るとなった場合には、引き続き県スポーツ協会や競技団体と連携しながら支援に努めていきたいと考えます。

針山委員 難しい、難しい言わないで、教育長も一回雨晴海岸のキャンプに来てください。また気分が変わると思います。よろしく願いします。

安心・安全の確保についてお尋ねをします。

今日、本当は氷見線で来たかったですけれども、ちょっといろいろ準備もあるもので、タイのほうでよく乗られているトゥクトゥクという乗り物で伏木から富山までやってきました。議会棟の前に駐車してありますので、お時間があれば見ていただきたいと思っております。伏木地域に点在する観光施設への交通手段として、地元企業がレンタルをしております。

その話は置いといてですが、3年前ぐらいから車線維持システム搭載車を利用するようになって、道路の中央線、外側線の剥離、摩耗しているところが大変気になるようになってまいりました。

今、県内の道路における区画線の剥離や摩耗の状況について、どのような手法で把握し、他県との比較を含めて、現状どのように認識しているのか、市井土木部長にお尋ねいたします。

市井土木部長 県管理道路の区画線の剥離や摩耗の状況につきましては、定期的実施する道路パトロールでの把握に加え、雪国である本県では、除雪車のチェーン走行やブレードによる剥離など、冬期間の除雪作業の影響を受ける場合が多うございますので、雪解け後においても、改めて路面状況を調査し把握に努めております。

こうした道路パトロール等での状況把握は、職員の目視で行われることが多く、職員によって判断に差異が生じることもございます。

これを解消するため、広島県福山市や神奈川県警では、A Iを活用し、区画線のかすれ具合を数値化し客観的に評価するシステムを今年度に導入もしくは導入を目指すと同っております。

一方、本県の道路管理におきましては、令和3年度から舗装の損傷の把握にA Iを活用しております。これは、道路パトロール車に搭載したドライブレコーダーの映像をA Iにより解析し、舗装の劣化状態を数値化するシステムを導入したもので、これにより従来よりも劣化箇所の把握の定量化が図られ、調査の効率も向上したところでございます。

区画線の状況把握へのA I活用につきましては、県としても有効な方策であると考えております。現在、他県で導入が始まったところであり、その成果も参考にさせていただきながら今後検討してまいります。

針山委員 官は官、民は民で情報収集するのではなくて、収集した情報をしっかりと共有できれば、効果的な補修につながるのではないかなと思っております。

区画線の補修は、計画的かつ定期的に行う必要があると思っております。優先順位やサイクル、また予算の確保の考え方など、どのような基準で進めているのか、市井木部長にお尋ねします。

市井土木部長 県内の県管理道路の総延長約2,480キロメートルのうち、未舗装道路などを除いた区画線——外側線とセンターラインの2種類ございますが、この区画線が設置されている道路は約2,250キロメートルございます。また、1年間に引き直す2種類の区画線の延べ延長は、過去5か年の平均で約400キロメートルとなっております。

県下全ての区画線を引き直すには、単純計算で10年以上のサイクルが必要となっております。

しかしながら、区画線の剥離や摩耗の速度は、交通量や沿道の状況、機械除雪の有無等により一律ではございません。このため、特にサイクルは定めずに、雪解け後の調査や地元からの情報提供を踏まえ、通学路沿いなどの危険箇所、交通量が多く区画線の損傷の激しい箇所などを優先し、重点的に実施しているところでございます。

引き直しの時期は、冬の損傷が激しいため雪解け後に着手しております。予算は、例年、着手前の9月補正や11月補正のゼロ県債で一般財源による県単独事業に計上しているところでございます。

今年春先の工事分につきましては、前年度補正とゼロ県債の合計で、昨年度より5,000万円多い2億4,000万円を確保し、業界からの着工準備期間確保の御要望もありましたことから、今年は例年より1か月程度早い3月初めまでに計23件の契約を行い、前倒しを図り、施工したところでございます。

県単独事業では、舗装や防護柵など、ほかの道路修繕等も併せてバランスよく進める必要がありますが、区画線設置に必要な予算の確保に努め、道路交通の安全確保に取り組んでまいります。

永森委員長 針山委員、持ち時間が少なくなりました。

針山委員 分かりました。

交通事故も車線逸脱に起因するものが最も多いわけではございますが、そういった観点からもしっかりと整備をしていただきたいと思いますっております。

委員長、デジタルサイネージによります資料の提示、許可いただけますか。

永森委員長 許可いたします。

針山委員 一昨日、八嶋委員からの質問もございましたが、農業用水路の質問でございます。

本県は転落事故防止対策として、初めて県警と連携して、県民への普及啓発や注意喚起などに取り組んでおります。

今、デジタルサイネージのほうで出ましたが、「用水だ！くん」。私も前回の予特の質問のときに初めて名前を知ったわけでございます。いろんな方から話を聞きますと、落ちる前に何か喚起できないのかと。「用水だ！くん」は、もう完全に水につかってしまっているわけでございますので。

もう一つの、ぬいぐるみのほうも、先日は知事からも大変愛くるしくて人気があると答弁ございましたけども、用水の事故の被害に遭われた方とか御家族の方は、あんまりこの「用水だ！くん」がはしゃぐ姿も見よいものではないのかなと思っております。注意喚起には長年親しんできたキャラクターだと思っておりますし、私もそこを否定するわけではございませんけれども、たまたま新世紀産業機構のアルミサンドボックス事業で、地元企業と県総合デザインセンターが中心となって開発、採択された転落防止サインの記事を新聞で読みました。今、転落防止サインを掲示させていただきたいのですけど、許可をお願いいたします。

永森委員長 許可しますけど、質問時間が少なくなっています。

針山委員 児童が親しみを感じて記憶に残るデザインが開発されたということでございます。心理的な効果が高く、注意喚起の面で成果が期待できる。その活用方法はないのか、津田農林水産部長にお伺いいたします。

津田農林水産部長 今ほど御紹介いただきました注意看板「用水だ！くん」。これは40年間、土地改良区と共に県として普及啓発に努めてきたものでありまして、このサインは用水の危険性を象徴するものとして県民に広く親しまれると考えております。

また今年度は、御紹介ありましたように、このサインのキャラクターを用いた着ぐるみに「用水だ！くん」と名前をつけて広報活動を行っております。

御提案の転落防止サインでございますが、黄色い猫のキャラクターが用水路を指差して近づかないようアピールしており、子供に親しみやすいデザインとなっております。

このため、特に都市部では「用水だ！くん」の看板が比較的少ないということもありますので、通学路等において地域が主体となって設置していただければ、安全対策への効果が高まると考えております。

また、委員からは着ぐるみの使い方についても御意見をいただいたところでございます。実はこの着ぐるみには、バツ印のない普通の顔のパターンのものもございますので、TPOに配慮しながら分かりやすい広報に努めてまいりたいと思っております。

針山委員 よろしく申し上げます。ありがとうございました。終わります。

永森委員長 針山委員の質疑は以上で終了しました。

暫時休憩いたします。

午後の会議は1時に開会いたします。

午後0時00分休憩